

ダイコン「涼太」の特性と栽培のポイント

〈寒高冷地〉雪印種苗㈱ 東北事業部 技術顧問

〈一般地〉雪印種苗㈱ 千葉研究農場

長根強
松井誠二

寒高冷地

1 はじめに

東北地方を中心に栽培されている夏ダイコンはおよそ8,000 ha 前後と推定される。しかも、栽培地は標高350~900 mの準高冷地から高冷地に多く栽培されている現状である。

夏ダイコンの主力品種は快進総太り、新打総太り、猷夏青首、耐病総太り、T-340などである。

一方、産地での栽培上の課題は連作障害と地力増強対策である。ここでは、「涼太」の特性と栽培のポイントについて述べることにする。

2 作型

東北地方における「涼太」の作型は下表のとおりである。

地域	月					
	作型	6	7	8	9	10
北海道 東北 高冷地	マルチ	●	●	■	■	■
	露地		●	●	■	■

一般的には6月中旬から8月下旬まで播種できる。しかし、高冷地での7月上旬以前の早まきでは、低温の影響により抽だいが心配されるので、播種後2週間の平均気温が15℃以上を目安とすれば抽だいの心配がない。また、8月下旬以降の播種では根部肥大期が低温に遭遇するので、根長が短くなり品質低下を招くので注意する。

マルチ栽培は東北高冷地の早まきに適用されるが、高温期のマルチ栽培は避けたい方がよい。

概して涼太の作型は6月中旬~8月下

旬まきで、比較的単価の高い8~9月出荷を狙うと品種の特性が十分発揮される。

3 「涼太」の現地試験結果

平成2年に現地試験をした中から代表的なもの3例について見たのが表1~3である。

表1は岩手県宮守村の例であるが、耐病総太り対比では総じて勝っていたが、尻づまりは劣った。昨年は特に生育中期以降高温で推移したためと思われる。したがって、播種期を後半に10日前後ずらすことにより良品が得られるものと思われた。

また、この播種期で通年は抽だいが心配される。表2は岩手県遠野市の例で、代表的な3品種について比較したものであるが、ここでも播種期が7日くらい早いようである。しかし、根部の肥大は猷夏並でT-340、北海総太りより勝った。

青首、曲がり、揃い、肌は他の品種より一段と良かった。

表3は青森県東北町の例で、青麗と比較したものであるが、青麗は一見、涼太より大型で、曲がり多く、揃い性も良くなかった。

表1 夏まきダイコン品種比較試験

品 種	根長	根径	根重	青首	曲がり	肌	ス入り	尻づまり	揃い
	cm	cm	kg						
涼 太	33.2	6.8	0.95	8	7	7	8	6	7
耐病総太り	34.3	6.8	0.87	6	7	7	4	8	7

注) 播種期 平成2年7月6日
 栽植密度 畦幅70cm 株間30cm 標高960m
 収穫期 平成2年8月29日(54日目)
 試験場所 岩手県宮守村寺沢高原
 担当者 宮守村ダイコン展示場
 調査基準 青首:9極濃緑~1白, 曲がり:9極良~1極不良
 肌 :9極滑~1極粗, ス入り:9無~1甚多
 尻づまり:9極良~1極不良, 揃い:9極良~1極不良

表2 夏まきダイコン品種比較試験

品 種	葉長	根長	根径	根重	青首	曲が り	肌	ス 入り	尻づ まり	揃い
	cm	cm	cm	g						
涼 太	42.3	38.8	7.6	1,275	7	8	8	8	5	8
T-340	45.5	39.9	7.0	1,283	6	5	6	8	7	7
北海総太り	42.3	36.3	6.8	1,133	6	7	8	8	6	7
献 夏	40.0	38.3	7.6	1,442	6	8	7	8	7	7

注) 播種期 平成2年7月10日
 施肥量 N 4.8 P₂O₅ 10.8 K₂O 4.8(kg/10a)
 栽培密度 畦幅 70cm 株間 30cm 標高 760m
 収穫期 平成2年9月6日(58日目)
 試験場所 岩手県遠野市貞任高原

表3 夏まきダイコン品種比較試験

品 種	葉長	根長	根径	根重	青首	曲が り	肌	ス 入り	尻づ まり	揃い
	cm	cm	cm	kg						
涼 太	45.4	35.0	6.5	1.03	7	8	8	8	6	8
青 麗	52.1	38.0	6.8	1.12	5	5	6	6	7	7

注) 播種期 平成2年7月17日
 栽植密度 畦幅 65cm 株間 27cm
 収穫期 平成2年9月11日(56日間)
 試験場所 青森県東北町土橋
 担当者 浜田正則氏ほか

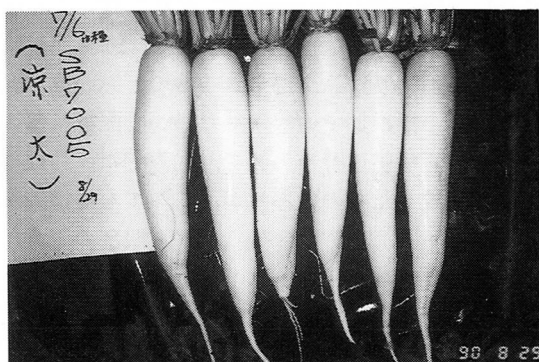


写真1 涼太
 (岩手県宮守村, 標高960m, 7月6日まき, 8月29日収穫, 表1)

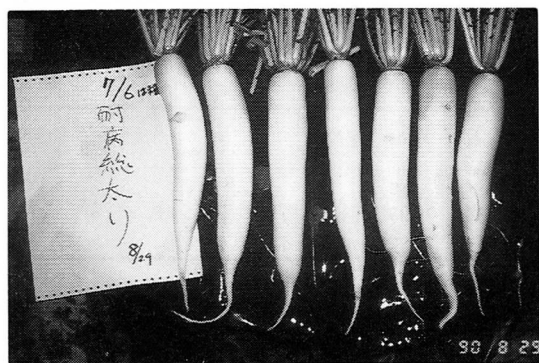


写真2 耐病総太り
 (岩手県宮守村, 標高960m, 7月6日まき, 8月29日収穫, 表1)

4 涼太の特性

上記現地試験から、夏まき青首ダイコンとして東北地方でも有望であり、他品種の組合せにより労働力分散が可能であり、長期継続出荷が可能である。品種の特性概要は次のとおりである。

①青首が鮮明で、現地試験の結果では、これに勝る品種はなかった。②葉は濃緑の中葉系、立性種である。③根長は35~38cm, 根径7cm, 根重1~1.2kgで根形よく、太さも揃い、播種後55~60日で収穫できる。④肉質もち密で、ス入り、空洞、黒しん、赤しんなど(生理障害)の発生も少ない。⑤抽だいは宮重系の中では遅く、夏まきの早出しに適する。

5 適期作型と栽培のポイント

① 高冷地(標高600m以上)での播種期は7月中, 下旬~8月上旬で早太り性を生かした早期収穫を狙うようにする。

② 平坦地では6月下旬~7月中旬播種であり、この時期はマルチの併用が効果高い。早まきでは草勢がやや強くなる傾向にあるので施肥量を減ずる。特に窒素は5kg/10a程度とする。

③ 平坦地での晩夏まき(8月下旬以降)では草勢が安定するので慣行施肥で問題はない。



写真3 現地試験ほ場
 (岩手県遠野市, 標高760m)

④ 極端な連作障害の多発地(萎黄病, 軟腐病, キタネグサレセンチュウなど)は避ける。

以上が当面の適期作型の栽培ポイントとなるが, 総じて, ダイコン栽培上, ほ場の衛生管理は極めて重要であることから, 残査処理はもちろん, 有機物や土壌改良剤の投入及び深耕, 排水対策などの土づくりを行い, 生育環境を作ってやることを忘れてはならない。

6 おわりに

弊社新品種, 夏ダイコン「涼太」の現地試験結果から紹介したが, 土づくりを吟味し, 播種期を守り, 栽培技術を工夫して産地化が図られ, 市場に名声を博する日を期待して終わりとする。

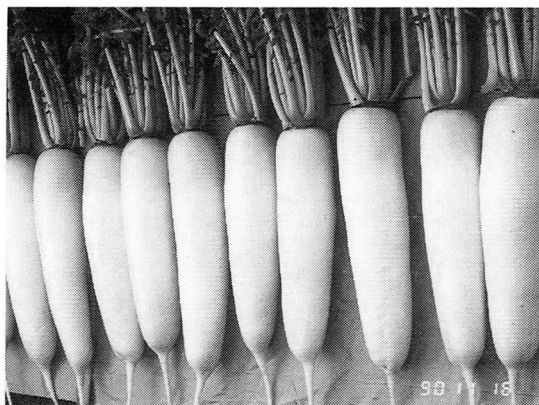


写真1 晩夏まきで評価の高い「涼太」

表2 ダイコン産地の東京市場への月別出荷量(t)

(平成元年)

産地	月	8	9	10	11	12
千葉県		126	150	4,727	9,638	9,610
埼玉県		46	41	521	1,659	456
北海道		4,151	3,782	1,949	52	7
岩手県		2,888	2,703	2,174	220	—

品種特性(一般地, 晩夏8月下旬~9月上旬播種の場合, 表1, 写真1参照)

①青首が鮮明で肌が美しく, 根の揃いが良い。

晩夏まきは一般に青首色が淡くなる品種が多いのですが, 涼太は青首の着色が優れ, 根部とのコントラストが非常に鮮やかです。また, 晩夏まきの収穫は10月20日前後からとなり, これは北海道, 東北を中心とする冷涼地ダイコン出荷の端期であり, 価格的にはやや変動的な時期となります。涼太の場合, 冷涼地出荷のものより品質的に優れたダイコンを出荷することが可能となり, 今後とも作付けの増加が予想されます(表2参照)。

②耐暑, 耐病性で萎黄病, ウイルス, 生理障害(空洞, 赤しん)に強く, 栽培が容易。

③葉は濃緑の中葉で立性。

葉がちになりにくいしっかりとした草姿で, 根の太りも早いために, 台風などによる曲がり根の発生が少ない。

④根長は33~38 cm, 根径は7.0~8.0 cm, 根重は1.0~1.5 kg。

早太り性であるため, 収穫日数は55~65日で尻の止まりが優れ, 入りも遅く安定しておりL, 2L出荷に最適です。

一般地

1 はじめに

ダイコンの高品質生産のポイントは, 第一に播種期を厳守することであり, 第二に適播種期間での上手な栽培方法の実践です。

各社より多数の品種が販売されていますが, そのポイントを押えていないために品種特性を發揮できないことが多いものです。

弊社では昨年の試作販売を経て, 本年より夏・秋まきダイコン「涼太」を本格販売する運びとなりました。今回は一般平坦地を中心にした涼太の適播種期と栽培のポイントについて紹介します。

2 「涼太」の品種特性

涼太は耐暑性と品質を重視して育成した青首総太りダイコンで, 一般地の晩夏まきと冷涼地・高冷地の夏まきで特性を發揮します。

表1 品種比較試験

8月27日播種, 10月25日調査(59日目), シルバーマルチ(平成2年, 千葉研究農場)

品種名	根重	根長	根径	揃い	根形	肌	青首	曲がり	肉質	ウイルス
	kg	cm	cm							
涼太	1.32	35.1	6.7	7.5	7.0	8.0	7.0	7.5	ヤヤシャリ	7.0
他社M	1.36	33.6	6.5	6.0	7.0	7.0	6.0	6.0	ヤヤシャリ	7.0
他社S	1.55	32.5	7.1	7.0	7.0	6.5	6.0	7.0	硬い	7.0

評点基準 揃い 9:極良~1:極不良
肌 9:極滑~1:極粗
曲がり 9:甚多~1:極少
根形 9:円筒形~1:円すい形
青首 9:極濃緑~1:白色
ウイルス 9:極強~1:極弱

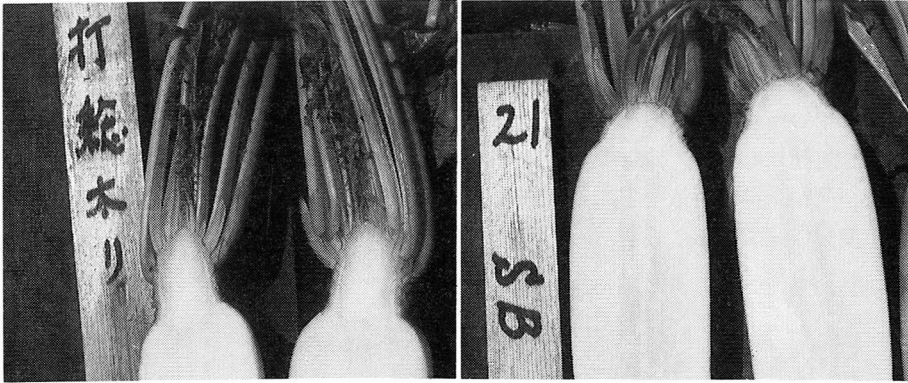


写真2 下葉の落ちと葉柄基部の盛り上がり
左：他社S 右：涼太

⑤肉質はち密でみずみずしく、生食、煮食、加工と用途が広い。

⑥栽培・調整時の下葉の落ちが少ない。

従来の品種は草勢がやや強く葉柄が軟かいために、下葉の落ちが激しく品質低下が問題になっています。この症状は8月下旬播種だけでなく、冷涼地、高冷地の6月下旬～7月末播種でも問題になっています。特に高温、多湿の条件で発生が多いようで、下葉の落ちが激しくなると葉柄基部が盛り上がる症状が見られ、ひどい場合はその盛り上がりは5～8cm程度にもなり、品質を大きく低下させます。涼太は葉柄がしっかりしており、基部の盛り上がりも少なく、高品質なダイコンを生産できます(写真2参照)。

3 播種適期と栽培のポイント

一般地の播種適期は8月下旬～9月上旬(8月23日過ぎ～9月12日ころ)ですが、マルチの選定は重要となります(図1参照)。

①マルチの選定

●8月下旬～9月初旬は地温を上げない方がよく、シルバーマルチの利用が一般的で、有孔性のものが特に好まれています。露地栽培の場合はウ

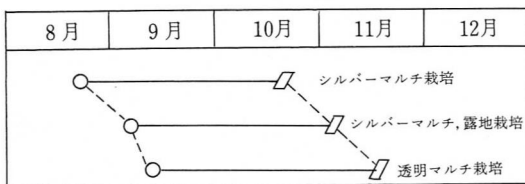


図1 一般地での「涼太」の適作型

イルス防除が重要で、アディオオン、DDVP、ディプテックスなどを定期的に散布します。

●9月上中旬播種はやや低温期に向かっての栽培になるために、地温を高める方がよく、透明マルチの利用が一般的で、高うね栽培の方がよい。

マルチは条間45cm、株間27cmの2条まきが適しています。

②施肥

この作型では草勢は比較的安定し、施肥は慣行施肥で大きな問題はなく、窒素はやや少なめとして残効肥料を生かすか、3～5kg/10a程度の施肥とします。リン酸とカリは各々10kg/10a程度とします。ただし、9月上中旬播種では全体に肥料を多めとして初期生育を促進させることが重要で、窒素-リン酸-カリ=10-20-10kg/10a程度とします。

③水管理

この作型の播種時期は通常、乾燥した時期が多くなります。初期生育を良好に促すには十分な水分が必要で、定期的なかん水を行うか、マルチングをする場合は雨を待ってから行うようにします。

④害虫対策

晩夏まきは一般にキスジノミハムシの食害によって品質を低下することが多いものです。播種前にエカチン粒剤を土壌混和して、美しい肌の青首ダイコンを生産することができます。

⑤緑肥の利用

土作りを目的として、前作に緑肥(ソルゴー)をすき込んだ場合は、分解期間として最低30日は必要です。タネバエ防止にはカルホス粒剤を6kg/10a程度土壌混和すると効果的です。

⑥播種期を厳守する

むやみな播種期拡大は品質低下の原因になりますので、適播種期を厳守して下さい。